

1. 景気動向

依然、全業種にわたってDI値はマイナス推移で、景気低迷から全業種にわたって、需要の停滞が問題点のトップとなっている。一部業種において、前回調査時よりも好転とする回答割合が若干増加したものの、公共事業の縮小や消費低迷とデフレ不況に伴う競争激化などとする当市を取り巻く環境は厳しい状況にある。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		
	4月～6月	7月～9月	4月～6月	7月～9月	4月～6月	7月～9月	4月～6月	7月～9月	4月～6月	7月～9月	
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	
売上高	 47	 35	 42	 40	 42	 42	 40	 40	 32	 26	
採算	 69	 56	 44	 42	 67	 75	 50	 48	 21	 21	
資金繰り	 41	 41	 36	 26	 25	 17	 43	 48	 12	 9	
業況	 53	 41	 39	 28	 58	 58	 43	 38	 18	 24	
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		熟練技術者の確保難		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		原材料の不足		大企業の進出による競争の激化		大型店・中型店の進出による競争の激化		利用料金の低下・上昇難	
業種別コメント	依然として、官公・民間ともに需要の停滞が経営を圧迫している。また、受注があっても値引きの競争が激しくマージンが極端に下がるなど、増々厳しい状況にある。		製造業では経営上の問題点では、今回新たに「熟練技術者の確保難」、「原材料の不足」があげられた。やはり、受注数量が増え、コストダウンの影響で利益率が悪化して、いっそう厳しい経営を強いられる。		売上では、前回調査時より好転の回答割合が若干増加したものの、「採算」、「資金繰り」などで、好転の回答が0と、一層厳しい状況にあるようだ。		消費の低迷により、苦戦しているものの、前回調査時よりもわずかながら景況は回復の兆しが見える結果となった。しかし、購買力の他地域への流出や大、中型店の進出により競争の激化など、顧客の商店街離れが大きな課題となっている。		売上では、前回調査時より好転の回答割合が増加しているものの、「需要の停滞」が依然として問題点の第1位に上げられている。全体的にDI値が上昇しているが、売上以外では好転が増加したのではなく、悪化から不変にポイントがソフトしたもので、景気の底打ちを示す結果となった。		

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調(50 DI)	好調(25 DI<50)	まあまあ(0 DI<25)	不振(25 DI<0)	きわめて不振(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。